

13 説明文を読もう ～「クジラたちの音の世界」～

日常会話には問題はないが、漢字や語彙に課題を持っている生徒にとって、文字言語としての教科書教材の説明文は、質量ともに、極めて難解である。そこで、まず説明文の基本的な構成パターンを漢字、語彙、論理構成ともに簡略化された文章で理解させ、次に、その構成意識を持たせた上で、2段階にリライトされた教科書教材文で、徐々に内容理解や段落構成をとらえていく学習を提案する。これは、在籍学級で同じ教材を学習する場合の先行学習としても位置づけられる。たとえ教科書の原文の読解は困難であっても、本文の内容に沿った学習活動においては他の級友たちとの相互交流や主体的な授業参加を可能にさせるものであると考えている。

1 領域 読むこと

2 教材 「クジラたちの音の世界」(中島将行 「国語1」光村図書)

教科書本文 本文リライト文 本文段落構成リライト文

別教材リライト文(4段落構成のもの二つ)

※生徒の漢字力・語彙力等を考慮して困難を感じないようにリライトする教材を選ぶ、またはリライト文を作る。

3 目標 ・説明文の基本的な構成パターンを理解し、文章の内容が理解できる。

4 指導時間 3～4時間

5 指導形態 取り出しクラス(在籍クラスでの授業につなぐための先行学習としても可能)

6 指導事項 ・言語スキル

領域	指導事項	言語スキル
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 文章の展開に即して内容をとらえる。 文章の構成や展開を正確にとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> キーワード、キーセンテンスが理解できる。 段落ごとの要点が把握できる。 接続語の役割が理解できる。 論理の構成パターンが理解できる。
言語事項	<p>【話や文章・文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ジャンルによる文章構造、文体などの特性を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明的な文章における文章構成を理解し、文章を書き換えることができる。

7 指導計画

	学習活動	伸ばしたい言語スキル	学習支援・指導・学習材
1 次 1 時 間	<p>○段落構成リライト教材を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「4段落構成ワークシート①」を音読する。 ・段落ごとのキーワードを確認し、内容をつかむ。 ・4段落の構成をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明瞭に正しく音読できる。 ・キーワードとなる言葉が分かる。 ・段落ごとの内容と段落の構成が分かる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>「はじめ」「なか1」 「なか2」「まとめ」</p> </div> <p>に分ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない漢字、語句は補足、言い換えを行う。 ・キーワードをマークし、ワークシートに書き出す。 (簡略化 視覚化) ・黒板にキーワードを書いたシートを貼り、さらに視覚化する。 ・段落の構成パターンを内容の展開にそって示す。
	<p>○「4段落構成ワークシート②」(段落の順序をバラバラにしたもの)を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの段落からキーワードを探す。 ・①で学習した段落構成パターンの順に正しく並び替える。 <p>○文章を確認しながらキーワードを使って段落ごとに要旨をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明瞭に正しく音読できる。 ・キーワードとなる言葉が分かる。 ・段落ごとの内容から構成のパターンの順に並べ替える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>「はじめ」「なか1」 「なか2」「まとめ」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・並び替えた理由や段落ごとの要旨をキーワードを使って説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に掲示、または机上に置いた段落ごとの文章カードを読ませる。 ・分からない漢字、語句は補足、言い換えを行う。 ・イメージしにくい内容については補足する。 ・キーワードをカード上にマークする。 ・黒板(机上)のカードを直接並び替えさせる(簡略化 視覚化)。 ・黒板(机上)のカードを示しながら並び替えた理由や段落の要旨、構成を説明させる。

<p>2次 2〜3時間</p>	<p>○教科書教材の段落構成のリライト文を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「クジラたちの音の世界」を5段落に構成し直したものを読む(ワークシート③)。 ・段落ごとのキーワード、キーセンテンスを探す。 ・キーワード、キーセンテンスをもとに、段落ごとの内容を理解し、要約する。 ・5段落の構成をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明瞭に正しく音読できる。 ・キーワードとなる言葉が分かる。 ・段落ごとの内容を一文に要約できる。 ・1～5段落を <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 「はじめ」「なか1」 「なか2」「なか3」 「まとめ」 </div> に分けられる。 ・上のように分けた理由を段落相互の関係から説明できる。 ・接続語の役割が理解できる。 	<p>★教科書教材(12段落)を5段落(各段落1～3文)に構成し、リライトしたものを用意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の語彙力や漢字の課題にあわせてリライトする。 ・教材自体の段落構成が明確でない場合は構成もシンプルなものに改める必要がある。 ・キーワード、キーセンテンスをマークする(簡略化 視覚化)。 ・ワークシートに書きまとめる。 ・単文で書ける程度の要約文でよい。 ・内容が理解できているか、叙述に関して、発問し、確かめる。次に学習する本文リライト文の内容把握のためにも確実に理解させたい。 ・この文章の場合の「はじめ」「なか」「まとめ」の意味、役割を説明させる。
	<p>○教科書教材本文のリライト文(12段落)を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「クジラたちの音の世界」を段落数や構成はそのまま、文章のみリライトしたものを音読する。 ・2次のワークシート③で学習した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明瞭に正しく音読できる。 ・新しい語彙を知り、理解できる(辞書の活用)。 ・キーワード、キーセンテンスを探すことができる。 	<p>★生徒の語彙力や漢字の課題にあわせてリライトする。ただし、専門用語等でリライトできないものはそのままとし、辞書の活用や教師の補足を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート③で学習したキーワードを手がかりに、本文の中から書かれている部分を探しマークする(視覚化)。

	学習活動	伸ばしたい言語スキル	学習支援・指導・学習材
	<p>5段落は、それぞれ12の段落のうちどこに書かれているかを探す。</p> <p>・12段落を意味段落に分ける。</p> <p>・意味段落の内容をおおまかにつかむ。</p> <p>・説明文の構成の仕方について、再度確認する。</p>	<p>・内容のまとめりから五つの意味段落に分けられる。</p> <div data-bbox="555 524 869 692" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「はじめ」「なか1」 「なか2」「なか3」 「まとめ」</p> </div> <p>・小見出しを考えられる。</p> <p>・段落の構成図を作成する。</p> <p>・論理の構成パターンが理解できる。</p>	<p>・形式段落ごとの内容を確認しながら「はじめ」「なか」「まとめ」に分けさせる。</p> <p>・形式段落ごとの内容を確認しながら「はじめ」「なか」「まとめ」に分けさせる。</p> <p>・「なか」はさらに話題の違いから三つに分ける。</p> <p>・発問しながら、段落ごとの内容の共通点や差異、また段落の書き始めを意識させて段落間のつながりを、生徒自らに気付かせたい。</p> <p>・マークされた部分をもとに、意味段落全体の要旨をつかみ、タイトル(小見出し)を考える。</p> <p>・タイトルをカードまたはワークシートに書き出し構成図を完成させる。</p> <p>・黒板(机上)にカードを並べ、視覚化する。</p>

ワークシート①

説明文を読む力をのばそう！

動物の体のしくみはどのようなになっている

のでしょうか。①

ラクダの足のうらは広がっていて、砂にしがまならないようになっていきます。②

ホッキョクグマの足のうらは毛が生えていて、氷ですべらないようになっていきます。③

このように動物は、生活にふさわしい体のしくみを持っています。④

④	③	②	①	段落
				キーワード (だいたいなとば・中心になることば)
				構成

ワークシート②

説明文を読む力をのばそう！

世界には、さまざまな習慣がある。①

人に出会ったとき、アメリカやヨーロッパの人々は、あく手をする。日本人は、おじぎをする。②

食事のとき、日本人ははしを使う。他の多くの国の人々は、ナイフやフォークを使ったり、手で食べたりする。③

国によって、社会的な習慣は異なる。④

④	③	②	①	段落
				キーワード (だいたいなとば・中心になることば)
				構成

ワークシート③

説明文を読む力をのばそう！

「クジラたちの音の世界」

なかまといっしょに暮らすクジラたちは、どのようなにして情報をもらったり、伝え合ったりしているのだろうか。①

クジラは「クリック」とよばれる短い音を出すことができる。その音がまわりのものに当たって、はね返ってくる音を聞くだけで、まわりの様子を知らることができる。②

また、クジラは「ホイッスル」とよばれる低く長く続く音を出すことができる。その音を使って、それぞれのなかまどうしのコミュニケーションをとって、情報を伝え合っている。③

音は、光の屈みにくい海の中でもひびきわたる。また音は、陸の上の五倍の速さで伝わる。つまり、音を使うことは、海の中の情報のやりとりにはぴったりのやり方である。④

つまり、クジラたちは、自分たちが暮らす環境の中で、音といういちばんぴったり合ったやり方を使いながら、生活している。⑤

段落	①	②	③	④	⑤
キーワード (だいたいなとば・だいたいなと)					
構成					

クジラたちの音の世界

中島将行

動物たちはそれぞれが自分にしかできないやりかたで、まわりから情報をもらったり、もらった情報や気持ちをあなたがいに伝えあったりして生活している。特に、なかまといっしょに暮らすことの多い動物たちにとって、それはとても大事なことである。①

海で暮らす動物たちは、どのようにして情報をもらったり、伝え合ったりしているのだろうか。クジラを例にして調べてみよう。②

クジラたちは、まわりの様子を正しく知って、とても上手に生活している。そのことから、クジラたちは、情報をもらったり、送ったりするための何かすぐれたやり方をもっているのではないかと、ずっと前から話し合われてきた。しかし、その「何か」は、長い間分からないなぞだった。③

ところが、クジラが鳴くことが知られるようになって、このなぞが少しずつ分かるようになってきた。クジラの出音が、すぐれた働きをして役に立っていることが分かってきたのである。④

クジラは高い音から低い音まで、いろいろな種類の音を出すことができる。しかも、とても短い音と、すこし低くて長く続く音の二種類を、目的に合わせて使っているのである。⑤

短いほうの音は、「クリック」とよばれる。これはまわりの様子を知らするための音である。クジラの聴く力はいへんすぐれている。自分の出したクリックがまわりの物に当たり、はね返ってくるのを聞くだけで、それがどのくらいのおおきさなのか、何でできているのか、また、止まっているのか動いているのかなどが分かるのだ。⑥

さらに、自分たちのえさになる魚たちが、どの方向へ、どのくらいの速さで進んでいくのかも、このクリックの音のはね返りで分かる。これは、人間が海中を探るために使う探知機と同じ仕組みである。⑦

もう一つの、低く長く続く音は、「ホイッスル」とよばれる。これは、仲間どうしのコミュニケーションに使われる。言いかえれば、クジラたちの「言葉」といえるだろう。おもしろいことに、同じ種類のクジラでも、その時の仲間によって使われるホイッスルの音は違うことがある。それぞれのなかまどうしでしか通じない特別な音を使って、情報を伝え合っているのかもしれない。⑧

ザトウクジラは、このホイッスルの音で「歌」を歌うことが知られている。五分から二十分くらいの間で、まるでメロディのように、ひとまとまりの決まった音をくり返しくり返し出すのだ。こうした音を出すのは、大人になった雄のザトウクジラであり、子どもをつくるうとする繁殖の時から中心である。このことから、ザトウクジラの「歌」は、おにも雌や、ライバルとなる雄に自分がそこにいることを知らせるためのものだろうといわれている。⑨

それでは、クジラたちは、なぜこのように上手に音を使って、まわりの様子を知ったり、情報をおたがいに伝え合ったりするようになったのかを考えてみよう。⑩

彼らは、光の届きにくい海の中で生活している。こうした海の中では、二十メートルほど先を見わたすのがやっである。目で見て分かる情報は、とても頼りにならないものである。⑪

しかし音は、たとえ暗やみだらうと響きわたる。それだけではない。水の中では、音は陸の上の五倍という驚くような速さで伝わるのである。音こそ、海の中の情報のやりとりにはびつたりのやり方であるといえるだろう。すなわち、クジラたちは、自分たちが暮らす環境の中で、いちばんびつたり合ったやり方を使いながら、生活しているのである。⑫